

## えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



8月16日(木) ご両親

お盆中でしたが台風が東北に接近する前と思  
い、朝一の面会を申し込みました。息子は入室一番、  
私の体調を気にしておりましたが、私の今一番は10  
年来の念願である25日～26日の高知県で開催される  
全国母親大会に参加し壇上で息子の無実を訴えること  
です。心を悩ませているのはそれまで私の体力回復  
のため数カ所の集いを欠席し皆さんに大変ご迷惑  
をお掛けしたことです。話題は栃木・今市事  
件のこじつけによる棄却判決や大阪の富田林警察署  
での留置人の逃走になり、思わず仕切りのアクリル  
板を叩いてみましたがびくともしませんでした。息  
子も仕事にもいくらか慣れてきたのか自分の応用力  
のなさに反省していましたが、体力気力とも回復し  
てきた感じに見られましたのでいくらか安心しなが  
ら、台風の後を追いつきました。

8月22日(水) 救援会相模原支部

8月18日(木)の支部会議で新しく支部役員になっ  
た同世代の武田さんを、守さんに紹介を兼ねて面会に  
行って貰う事を決めた。

22日(月)当日は千葉駅に戸賀さんの出迎えをうけて  
千葉刑務所へ行ったのだが、武田さんの面会は何故か  
許可されなかった。武田さんの葉書が直前の到着で、  
面会出来なくなったことを知らされた。年賀状は半年  
以上前だからなあ。颯爽と面会室に現れた守さんにこ  
の事を先ず伝えて謝った。「10年経っても千葉の夏場  
の暑さに慣れなくて」と守さん。アイスノンが配られ  
るようになったのは1歩前進と捉えよう。台風情報  
がある高知日本母親大会(8月25～26日)に出かける  
お母さんの身を心配されていた。全国各地から集ま  
った母親に「守大助は無実です」1日千秋の思いで闘  
ってくれている母への感謝と気遣いの気持ち～は添田  
さんを通じてお母さんに届けたよ。

糸島さんと武田さん



えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医  
療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴  
に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙  
台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2  
月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大  
助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛  
緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも  
否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃  
棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014  
年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時  
抗告を行が2018年2月28日棄却される。3月5日  
最高裁に特別抗告を行う。

8月30日 末広百代

面会番号14番は、午前からの面会者の数で30日は、  
午後は私たちの他にもう1組だけでした。レンガ造り  
の門を通過して待合室に入ると、すぐ呼ばれて面会室  
に入りました。

笑顔で入ってきた大助さんは、やせて顔も小さく  
なったよう。「スコップを持って大鍋にむかっている  
ので肩が痛い」「火を扱うので汗をかき、1日4回は服  
を着替える」「調理の仕事にかわってから、連休が取  
れないので疲れがとれない」「4人で組んでする仕事  
なので1人ぬけると残った3人に負担がかかる」「なの  
で、休みの日に、なるべく面会をしてもらおうように  
している」話が刑務所での長い暮らしに。釈放さ  
れてからも自殺をはかろうとしたり、拘禁症をわ  
ずらう人もいる『大助さんは大丈夫?』⇒②へ

激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2018年 121号

● 10月は上旬にメール等でお知らせします。救援会神奈川本部に問合せ。

□面会申込み/□国民救援会神奈川本部 Tel050-3310-1368fax045-663-7953 E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp

発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

E-mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

-②との問いに「おかしくなったら楽だと思ふときもある。両親や支援してくれる人がいるからしっかりしてないと！」との返事。大助さんをもっともっと、手紙や面会で支えていくことが大切だと思いました。千葉駅から送迎していただき、ありがとうございました。

追伸

\*面会后、大助さんの様子を、守裕子さんにお伝えしました。「息が苦しくて、えらい」と言ってみえました。

\*大助さんの勤務は、今年の暑さの中で「カコク(過酷)」すぎ、体をこわさないか心配です。本人からは成績に関わるので言いにくいのかも。勤務条件の改善ということで申し入れをできませんか？

末広さん←



8月27日(月) 玉田ミタテさん、典彦さん

朝早くから、あれこれと千葉行きの準備をしていたはずなのに、相変わらず雑用の波。渋滞の中、わくわくがドキドキになり、昼前の面会者のいつも大勢のにぎやかな受付。いつもの優しい青年大助さんが入ってきた。「暑い中」と励ましに来たはずの私たちの労をねぎらう笑顔。思わず「ありがとう」と胸が詰まる。

いつものことながら「すみませんね」と笑う。「中は暑い？」と場違いな質問、「あついですよ」と彼は笑う。何枚もシャツを変えて仕事をしているんですと「僕はやってない」という確固とした思いが笑顔とゆとりを見せてくれる。とにかく、早く出て、一緒に九十九里の海に行こう。田んぼは稲刈りが始まり白鷺が群れて、エサを取りに数十羽も集まるんですよ。見せたい月影がうかんで、早くしようねと繰り返す。千葉に居て、ここが千葉のどのへんか知らない。宮城からここ千葉に収監されて早10年、司法の真実を見ない裁判に心から怒りを感じさせられる。

ご両親の話になり、故郷宮城の景色、思い出を、高知の母親大会で訴えているお母様の様子など思い浮かべながら「もっと、頑張るからねと約束、一日も早く、外に出たら一緒に遊びましょう」「いつもこんなおしゃべり面会でいいのかな」と、「いっぱい笑えていい」と大助さんが答えた。

差し入れはタオル2本、チリ紙、週刊誌3冊

8月24日(金) 渡場大河(救援会神奈川)

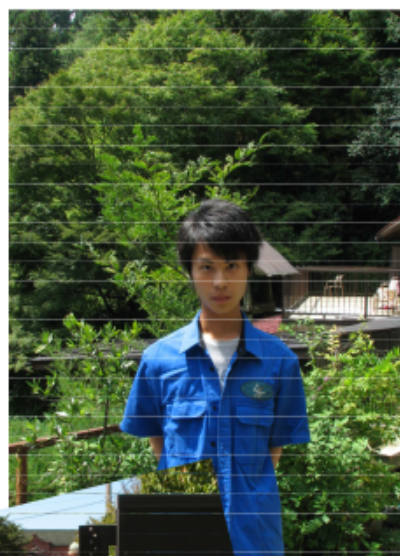
大助さんとの面会は、今回で2回目でした。前回面会をさせていただいてから1年近く経過しておりますが、大助さんはお変わりなく、お元気そうでした。私のことも覚えていてくださり、嬉しかったです。

今回は、国民救援会千葉県本部から戸賀さんも一緒に来ていただき、大助さんと3人でお話しをしました。御両親がお元気づちに大助さんの再審無罪を勝ち取るために、この再審請求審でどうしたら勝てるかが課題であり、そのためには大助さんが、本人だからこそ語れる事件の真相や自分の気持ちを伝え、支援の輪を広げることが必要だと話題になりました。

しかし、今まで裁判の中で明らかになった事実や大助さんが発信してきたメッセージを、私が熟知していなかったために前向きな議論ができませんでした。支援者でありながら勉強不足であったことは、反省しなければなりません。

今回の面会を通じて、私が支援者としてまだまだ力不足であることが明らかになり、今後の課題として事件の実態を掴むためにもっと勉強する必要があると思いました。しかし、本人だからこそ語れる事件の真相や自分の気持ちを伝え、支援の輪を広げる必要性を、大助さんには御理解いただきたいと思っております。そのためにも今後も面会を継続し、自分も勉強した上でお話ししていきたいと思ひます。

渡場さん←



糸島さんと  
武田さん  
↓

